



履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	国語	一斉	4時間

教科書 現代の国語3年 (三省堂) 中学書写3 (教育出版)	副読本 よくわかる中学国文法(吉野教育図書) 漢検 漢字学習ステップ (日本漢字能力検定協会) 論理エンジンOS3(水王舎)
<b>目標・ねらい</b> ・ものの見方や考え方を深め、言葉を豊かにして目的や場面に応じて的確に表現する力を育てる。 ・文章を論理的に読む、あるいは書く能力を養う。 ・古典に親しみ、日本の文化や伝統について関心を深める。	
<b>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</b> <b>学習方法</b> 予習 教科書の本文を読み、分からない語句の意味を辞書で調べておく。 復習 本文・ノート・プリントを見直し、学習内容を理解できているか確認しておく。 関連した本を読むなど読書の興味へつなげる。  <b>文法について</b> 口語文法は敬語を含めた総復習をする。 文語文法は、用言の活用表と係り結びの法則を中心に学習する。  <b>長期休業の課題</b> 長期休業中に、作文もしくは読書感想文を1篇ずつ課題とする。 俳句作り、課題作文等、外部コンクールにも応募する。  <b>小テスト</b> 漢字テスト・語彙テストを定期的実施する。また、年間に3回程度到達度テストを行う。 達成度に応じ、試験後や長期休業時に課題や補いを行う。  <b>書写</b> 毛筆・硬筆併せて、年間10時間程度行う。  ※学年の状況に応じて単元が前後することがある。 ※9～10月に集中的に探求・表現活動や読書を行い、授業中の実践過程や成果物を評価するため、秋中間テストは行わないものとする。	

観点	割合	授業時における項目
国語への関心・意欲・態度	10	提出物・取り組み方
話す・聞く能力	5	授業での発表や対応
書く能力	10	長期休業中の課題作文・単元後の感想文など
読む能力	60	中間テスト30＋期末テスト30
言語についての知識・理解・技能	15	漢字テスト10＋書写5

年間授業計画表

	単元	目標
前期	1 詩・小説 2 評論 3 口語文法 4 書写 5 論理エンジン	1表現を味わい、心情とその変化や人物像、作品に込められたメッセージなどを読み取る。 2論理的に述べられた文を読み、知識を広げると共に、論理的文章の構成を学ぶ。 3口語文法を総復習し、定着をはかる。 4毛筆と硬筆を学び、正しく美しい文字を書く。 5物事を筋道を立てて考える方法を学ぶ。
	中間テスト	
後期	1 論理エンジン 2 評論 3 文語文法 4 古文	1物事を筋道を立てて考える方法を学ぶ。 2評論の展開法について学ぶ。 3古文入門、品詞分類表による古語の確認。 4仮名遣いの確認、古文の暗唱と共に、古文を通して古典の世界観を学び、作品を味わう。
	期末テスト	6筆者の主張を通して社会や人生についての認識を深める。 7毛筆と硬筆を学び、正しく美しい文字を書く。
後期	1 文語文法 2 古文 3 ディベート 4 小説 5 書写 6 探求・表現活動	1歴史的仮名づかいや用言・係り結びを学習する。 2古典のリズムや世界観を学ぶと共に、古語や単語を意識しながら読む練習をする。文語文法で学んだ用言や係り結びの法則を実際の文章の中で確認する。 3世の中の問題と関連付けて意見を表現することを学ぶ 4作品の主題を通し、人間の生き方について考える。 5毛筆と硬筆を学び、正しく美しい文字を書く。 6課題解決の手法を考え、そのプロセスを実践する。また、それを成果物等を通じ発表する。
	冬中間テスト	
後期	1 論理エンジン 2 小説 3 漢文 4 文語文法 5 和歌 6 評論 7 書写	1物事を筋道を立てて考える方法を学ぶ。 2さまざまな種類の小説を読み、読書の世界を楽しみながら主題をまとめる力を養う。 3漢文の基礎知識の復習と書き下し文や再読文字、読解の練習。 4中学で学習したの古典文法の総復習を行う。 5三大和歌集の比較、内容・文法事項などを調べ、古典の学習方法を身につける。 6一年間「論理エンジン」で学んだことを活かして少し難度の高い評論を読む。 7毛筆と硬筆を学び、正しく美しい文字を書く。
	学年末テスト	

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	社会(歴史)	一斉	2時間

教科書 中学社会 歴史 (教育出版)	副読本 学び考える歴史 (浜島書店)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の特色と移り変わりを理解し、各時代が今日の社会生活に及ぼしている影響を考える。</li> <li>さまざまな資料を活用して、歴史的事象を多角的に考察し公正に判断できるようにする。</li> <li>高等学校の世界史Aに対応できる基礎力を身につける。</li> </ul>	
<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 日常の学習</p> <p>(1)授業では、黒板を写すだけでなく、話の中で必要事項を判断し、記入すること。</p> <p>(2)上記の授業内容を、いろいろな資料などを使って調べながらノートにまとめること。</p> <p>(3)学習習慣定着のため、小テスト対策や課題提出は必ず行うこと。</p> <p>2 長期休業の学習</p> <p>(1)まとまった時間を使って調べ学習を行うこと。</p> <p>(2)休暇明けに確認テストを行うので、学習内容の定着をはかること。</p> <p>(3)成績不振者対象の特習には必ず参加すること。</p>	

評価について

観点	割合	授業時における項目
社会的事象への関心・意欲・態度	5	課題・小テスト
社会的な思考・判断	10	課題・小テスト
資料活用の技能・表現	5	夏休み課題・ノート提出
社会的事象の知識・理解	30	定期テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第6章 近代の日本と世界 1 明治維新と立憲国家への歩み  中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治政府が封建制度を解体し、中央集権国家建設のために行った諸改革を理解する。</li> <li>欧米列強に対抗するための富国強兵策と、諸改革がもたらした影響について理解する。</li> <li>明治初期の外交政策を理解する。</li> <li>自由民権運動と政党の誕生、憲法発布と議会の開設について理解する。</li> </ul>
	2 激動する東アジアと日清・日露戦争 3 近代の産業と文化の発展  期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の動向と、日清・日露戦争と日本のアジア進出を理解する。</li> </ul>
後期	第7章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 大正デモクラシー  秋中間テスト  3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦  冬中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の変化を通じ、大戦の特色をとらえる。</li> <li>大戦が世界に与えた影響を理解する。</li> <li>日本の参戦、民主化の興隆を理解する。</li> <li>世界恐慌が各国に与えた影響、日本の15年戦争の展開と結果を国際社会と国民生活の両面から理解する。</li> </ul>
	第8章 現代の日本と世界 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本  学年末テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の民主化と国際社会への復帰の背景を冷戦の動きを通じて理解する。</li> <li>大戦後の国際社会の基本的動向を理解する。</li> <li>冷戦が、朝鮮戦争をはじめとし、さまざまな紛争を生んだことを理解し、日本は西側陣営の一員として国際社会に復帰したことを理解する。</li> <li>冷戦終結およびその後の日本の動向と課題について考察する。</li> </ul>

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	社会(公民)	一斉	2時間

教科書 中学公民 日本の社会と世界 (清水書院)	副読本 ビジュアル公民 (とうほう)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の尊厳と人権の尊重の意義を広い視野から身につけ、民主主義に関する理解を深める。</li> <li>・国民主権を担う者として必要な基本的教養を身につける。</li> <li>・生活と政治の土台にある経済を学び、深い教養を身につける。</li> </ul>	
<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 日常の学習</p> <p>(1)授業では、黒板を写すだけでなく、話の中で必要事項を判断し、記入すること。</p> <p>(2)上記の授業内容を、いろいろな資料などを使って調べながらノートにまとめること。</p> <p>(3)学習習慣定着のため、小テスト対策や課題提出は必ず行うこと。</p> <p>2 長期休業の学習</p> <p>(1)まとまった時間を使って調べ学習を行うこと。</p> <p>(2)復習によって学習内容の定着をはかること。</p> <p>(3)成績不振者対象の特習には必ず参加すること。</p>	

評価について

観点	割合	授業時における項目
社会的事象への関心・意欲・態度	5	課題・小テスト
社会的な思考・判断	10	課題・小テスト
資料活用の技能・表現	5	課題・ノート提出
社会的事象についての知識・理解	30	定期テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1編 私たちの生活と政治 第1章 人権の尊重と日本国憲法 1 民主政治の成立 2 基本的人権の保障  中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。</li> <li>・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることを考える。</li> </ul>
	3 人権思想の新たな展開 第2章 国民主権 1 民主政治の原理としくみ 2 国民を代表する国会 3 行政を担う内閣  期末テスト  4 法と人権を守る裁判所 5 住民がきずく地方自治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の国会を中心とする民主政治の仕組みのあらましを理解する。</li> <li>・法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。</li> <li>・民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治への参加が大切であることに気づく。</li> </ul>
後期	第3章 平和主義 1 平和主義と日本の国際的立場 秋中間テスト  第2編 私たちの生活と経済 第1章 私たちの暮らしと経済 1 市場経済のしくみ 2 私たちの暮らしと価格 第2章 生産のしくみと企業 1 市場経済における企業 2 国境を超える経済 冬中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法における平和への姿勢を理解し、国際社会のなかで、日本の果たすべき役割を理解する。</li> <li>・市場経済を身近なものから理解する。</li> <li>・価格変動と景気の循環を理解する。</li> <li>・資本主義経済の特色を社会主義経済との比較をふまえて理解する。</li> </ul>
	第3章 政府の役割と財政 1 社会保障のしくみ 2 暮らしの向上と国民福祉 第3編 国際社会を生きる 第1章 こんにちの国際社会 1 国際政治のしくみ  学年末テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税のはたらきを理解する。</li> <li>・社会保障や労働者の権利を理解する。</li> <li>・国際政治と法、国際連合のしくみと働きを理解する。</li> </ul>

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	数学	分割	4時間

教科書 中学校 数学3 (数研出版)	副読本 数学の学習ノート 3年(正進社)
<p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式の展開を学び、その逆の因数分解ができ、2次方程式が解ける。</li> <li>・頂点が原点となる2次関数のグラフが描ける。</li> <li>・相似や三平方の定理を活用して、測量ができる。</li> </ul>	
<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>○定期試験について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業内容を中心に出题する。</li> <li>(2) 下記DNテストの内容を含む問題を出题する。</li> <li>(3) 試験当日に、問題集を提出すること。</li> </ol> <p>○その他のテストについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 章末テスト : 各章が終わる度に実施する振り返りテスト 合格点70点</li> <li>(2) 再テスト : 章末テストの再テスト 合格できるまで再テストや補習を受け続ける。</li> <li>(3) MN テスト : 日々の授業内容を確認する毎日テスト</li> <li>(4) DN テスト : 学習済み内容を自宅で振り返る土日テスト</li> <li>(5) TDN テスト : 学力テスト前に再確認をするDNテストの総まとめテスト</li> </ol> <p>○日々の学習について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 予習として、「教科書の例題を読む」と良い。ファイルを整理する。</li> <li>(2) 復習として、「その日のうちに問題集を解いて まる付けと間違い直し」をする。</li> <li>(3) 長期休暇の宿題はワーク1冊やプリントが配布される。</li> <li>(4) 各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。</li> <li>(5) 希望者に問題集「STEP演習(数研出版)」を販売する。各自のペースで取り組むこと。</li> </ol>	

評価について

観点	割合	授業時における項目
数学への関心・意欲・態度	20	提出物・DNテスト
数学的な見方や考え方	60	定期テスト 年5回
数学的な表現・処理	10	章末テスト・TDNテスト・学力テスト
数量・図形などについての知識・理解	10	MNテスト・課題

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1章 式の計算 因数分解 式の計算の利用 素因数分解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開と因数分解の関係を把握する。</li> <li>・素因数分解ができる。</li> </ul>
	第2章 平方根 平方根 中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有理数と無理数の違いを理解する。</li> <li>・平方根の大小関係を理解する。</li> </ul>
	根号をふくむ式の計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平方根の加減乗除ができる。</li> </ul>
	第3章 2次方程式 2次方程式 2次方程式の利用 期末テスト 第8章 標本調査 母集団と標本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式を解く。</li> <li>・解の公式によって2次方程式を解く。</li> <li>・標本調査を利用して、母集団の状況を推定する。</li> </ul>
後期	第4章 関数 関数 $y = ax^2$ $y = ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2乗に比例する関数を、式や表やグラフに表す。</li> <li>・変域を理解する。</li> </ul>
	関数 $y = ax^2$ の利用 放物線と直線の交点の座標 秋中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題を、2乗に比例する関数を利用して解く。</li> </ul>
	第5章 相似 平行線と線分の比 面積比・体積比 三角形の重心・内心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の相似条件を理解する。</li> <li>・中点連結定理を活用する。</li> <li>・三角形の相似の証明ができる。</li> <li>・重心や内心が分ける線分の比を考える。</li> </ul>
	第6章 円 円に関するいろいろな性質 冬中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円周角の定理を理解し、活用できる。</li> <li>・円に内接する四角形、円の接線と弦の作る角、方べきの定理を理解し、活用できる。</li> </ul>
	第7章 三平方の定理 三平方の定理 三平方の定理の利用 中学の総復習 学年末テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三平方の定理を理解し、活用できる。</li> <li>・中学の総復習を行う。</li> </ul>

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	理科 1分野	一斉	2時間

教科書 未来へひろがるサイエンス 3 (啓林館)	副読本 新中学問題集理科3年(教育開発出版) 中学理科 詳説用語&資料集2000(受験研究社)
-----------------------------	-------------------------------------------------------

目標・ねらい  
 ・自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度とともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。  
 ・実験観察を通して、自然の事物・現象に興味をもち、科学的な知識と探究心を養う。  
 ・基本的な事項をしっかりと身につけ、科学的思考とそれを表現する力を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

1学習方法  
 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。  
 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。  
 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。

2家庭学習  
 (1)学校からの課題を行う。  
 (2)定期試験に向けた学習計画を立て実行する。  
 (3)地球環境問題に対して、興味・関心をもつ。

3授業  
 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。

評価について

観点	割合	授業時における項目
自然事象への関心・意欲・態度	10	授業態度・提出物
科学的な思考	20	テスト・提出物など
観察・実験の技能・表現	10	ノート・実験観察や実習などの提出物
自然事象についての知識・理解	60	定期テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	運動とエネルギー 1章 力のつり合い 2章 物体の運動  中間テスト	・日常生活との関連をはかりながら、力のつり合いと合成・分解、物体にはたらく力と運動の間の規則性について理解する。
	3章 仕事とエネルギー 4章 いろいろなエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用  期末テスト	・仕事の量の求め方を理解し、仕事の原理を見いだす。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見いだす。  ・まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解する。身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づき、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解し、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解する。
後期	化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン  秋中間テスト	・水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いだす。  ・イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。
	1章 水溶液とイオン  冬中間テスト	・電池は化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づく。 ・電池の原理を、イオンのモデルを用いて説明できる。
	2章 酸・アルカリと塩  学年末テスト	・酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いだす。  ・酸とアルカリの電離のようすをイオンのモデルを使って説明できる。  ・酸とアルカリが反応すると水と塩ができることをイオンのモデルを使って説明できる。

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	理科 2分野	一斉	2時間

教科書 未来へひろがるサイエンス 3 (啓林館)	副読本 新中学問題集理科3年(教育開発出版) 中学理科 詳説用語&資料集2000(受験研究社)
-----------------------------	-------------------------------------------------------

目標・ねらい  
 ・自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度とともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。  
 ・実験観察を通して、自然の事物・現象に興味をもち、科学的な知識と探究心を養う。  
 ・基本的な事項をしっかりと身につけ、科学的思考とそれを表現する力を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

1学習方法  
 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。  
 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。  
 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。

2家庭学習  
 (1)学校からの課題を行う。  
 (2)定期試験に向けた学習計画を立て実行する。  
 (3)地球環境問題に対して、興味・関心をもつ。

3授業  
 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。

評価について

観点	割合	授業時における項目
自然事象への関心・意欲・態度	10	授業態度・提出物
科学的な思考	20	テスト・提出物など
観察・実験の技能・表現	10	ノート・実験観察や実習などの提出物
自然事象についての知識・理解	60	定期テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	生命の連続性 つながる生命 1章 生物の成長とふえ方 2章 遺伝の規則性と遺伝子  中間テスト	・生物の成長や生殖を細胞レベルでとらえ、親から子へ遺伝子が伝わることによって、生命の連続性が保たれていることを理解し、生命を尊重する態度を身につける。
	宇宙の中の地球 1章 地球とその外側の世界 2章 太陽と恒星の働き  期末テスト	・太陽系内外の宇宙について認識し、時間と空間の概念を理解する。
後期	地球と宇宙 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の星の動きと見え方  秋中間テスト  自然と人間(探究活動) 1章 自然界のつり合い 2章 人間と環境  冬中間テスト	・太陽系内外の宇宙について認識し、時間と空間の概念を理解する。  ・自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解する。 ・人間と自然のかかわり方について認識を深める。
	2章 人間と環境 3章 自然が人間生活におよぼす影響 4章 科学技術と人間 5章 科学技術の利用と環境保全  学年末テスト	・自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解する。 ・人間と自然のかかわり方について認識を深める。 ・自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し判断する態度を養う。

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	音楽	一斉	1時間

教科書 中学生の音楽 2・3年下 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)	副読本 なし
<b>目標・ねらい</b> ・音を使って、自分を表現する喜びを味わい、豊かな人間性を養う。 ・演奏や鑑賞を通して、他と協力して一つのものを作り上げる喜びを体験する。	
<b>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</b> ・授業の進度により課題の出る場合がある。 ・各種コンクール等への自主参加は自由。	

評価について

観点	割合	授業時における項目
音楽への関心・意欲・態度	30	課題への取り組み方・定期テスト・平常点
音楽的な感受や表現の工夫	20	実技テスト
表現の技能	40	実技テスト
鑑賞の能力	10	鑑賞プリント

年間授業計画表

	単元	目標
前期	のびやかな歌声、曲想・歌詞(歌唱)	・歌詞の美しさを味わいながら、日本の歌曲を愛好する心情を育てる。
	アルトリコーダー	・1、2年生で学んだ基礎を踏まえ、正しい運指で、曲想、アーティキュレーションを意識して演奏する。
	音色(鑑賞)	・楽器の音色や音楽の様々な構成要素を聴き取り、曲を味わって聴く能力を育てる。それぞれの感想、感じたことを共有しよう。
	曲想・歌詞(歌唱)	・リズムや和音、形式などの働きを理解して、合唱表現を工夫する能力を育てる。
後期	アルトリコーダー	・曲の雰囲気を読み、パートナーと協力して表現を工夫しながら演奏する。互いの出す音を感じあう。
	実技テスト	
	期末テスト	
	のびやかな歌声(歌唱)	・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する能力を育てる。
後期	日本の音楽	・日本の伝統音楽の魅力や郷土の音楽の良さを味わい、我が国の音楽に親しむ心情を育てる。
	音色(鑑賞)	・情景描写と表現を理解し、楽曲全体を味わって聴く能力を育てる。作曲者の心情、その背景について理解を深め合う。
	のびやかな歌声、ハーモニー・リズム(歌唱)	・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する能力を育てる。
	箏曲教室	・日本の楽器を実際に演奏することで、日本の伝統音楽に興味をもつ。
後期	実技テスト	
	学年末テスト	・人前で楽しみながら自己の音楽性を工夫して表現する。

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	美術	一斉	1時間

教科書 美術2・3（光村図書）	副読本 ウォッチ2（正進社）
<p>目標・ねらい 表現、鑑賞の幅広い活動を通して、創作活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし豊かな情操を養う。</p>	
<p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、タブリエを持参すること。</li> <li>・授業の進捗により課題の出る場合がある。</li> <li>・各種コンクールへの参加は自由</li> </ul> <p>〈夏期休業の課題〉(任意) トリックアートを用いた作品を提出する。 (表現方法に興味を持ち、意欲的に取り組む。目の錯覚を利用したトリックや図形の描き方を組みあわせ、不思議な空間を構成する。作品の中に工夫された形のおもしろさや不思議さを味わうことができる。)</p>	

評価について

観点	割合	授業時における項目
美術への関心・態度・意欲	20	提出物(10) 平常点・定期テスト(10)
発想や構想の能力	30	提出物 ・定期テスト
創造的な技能	30	提出物 ・定期テスト
鑑賞の能力	20	平常点(10) 定期テスト(10)

年間授業計画表

	単元	目標
前期	鑑賞 画家の自画像	・筆跡や、色の組み合わせから、画家の性格・心情を読み解く。感じたこと、自分の考えを言語化する。
	水彩画・デッサン 自画像	・マインドマップを作成し、内なる自己を探る。 ・観察力、基礎描写力を高め、対象を描き切る描写と内面世界の表現の両立を目指す。 ・水彩の表現を楽しむ。
後期	日本美術史	・日本の文化に根差した表現と、変動を学ぶ。 ・修学旅行への関心を高める。
	工芸 切り絵・紙染め	・技法を理解し、作品に活かすことができる。 ・和紙の特徴を活かし、色彩構成ができる。
	鑑賞・探求 水彩画/パステル画	・グループワークのなかで自分の考えや感じたことを言語化し、他者と共有する。 ・選出されたワードで、各々の発想を広げ表現につなげる力を高める。 ・制作した作品の鑑賞会と、振り返りをもとに、個々の感じ方や表現の違いを楽しむ。
	デザイン・プレゼンテーション 人のためのデザイン	・社会に目を向けた作品のデザインを思考し、グループワークの中で自分の役割を果たすことができる。 ・今までの美術学習経験を活かし、工夫ある美しい情報(アイデアスケッチ、模型作成、ロゴ、マークなど)を作成する。プレゼンテーションを行い、他者に伝達、PRする力をつける。
	学年末テスト	

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	保健体育	一斉	3時間

教科書 新中学保健体育 (学研)	副読本 中学体育実技 2017 (横浜市版 学研)
---------------------	------------------------------

目標・ねらい  
(保健) 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。  
(体育) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

見学の取り扱い  
・自分の体調を考えながら可能な範囲で参加をし、できるだけ見学はしないこと。  
・見学届は事前に提出すること。

体操服をきちんと着用すること。

怪我の防止のため、準備運動を徹底すること。

評価について

観点	割合	授業時における項目
運動や健康・安全への関心・意欲・態度	10	積極性、協力性、安全への配慮、提出物
運動や健康・安全についての思考・判断	10	授業内での状況判断、創造性、提出物
運動の技能	50	実技テスト
運動や健康・安全についての知識・理解	30	期末テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	集団行動・体育祭  バレーボール  ハードル	・出場競技の向上 ・集団行動での役割を判断し実行する  ・正しいボールコントロール(パス) ・ボールに対して積極的にレシーブする。 ・バレーボールのルールを理解。  ・50メートルのタイムとハードルのタイム差を縮めるためのハードリング・インターバルの走り方を探求する。
	保健 第4章 健康な生活と病気の予防  体育理論  期末テスト	・疾病の予防について理解を深め、対処法を考えられるように資質や能力を育てる。  ・スポーツを文化として捉え、生活の中にスポーツを取り入れていくことの意義を理解する。
後期	ハンドボール  ダンス  平均台	・基本的なパス、シュートの習得。 ・相手ディフェンスが戻る前にどう攻めるかを探求する。  ・創作 1.積極的に曲や音、テーマなどの意見を出すことができ、それに合わせた動きを考え、作ることができる。 2.グループの友達と見合い、よりよくなるよう工夫することができる。  ・上がり技、歩行、ターン、ジャンプ、バランス、下り技、前転
	合気道  保健 第4章 健康な生活と病気の予防  学年末テスト	・礼法、跪座、構え、足捌き、転換、受身の基本動作を身に付ける。 ・相半身片手どり入り身投げ 相手を崩すための技のかけ方を探求する。  ・疾病の予防について理解を深め、対処法を考えられるように資質や能力を育てる。

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	技術・家庭	一斉	2時間

教科書 技術・家庭 (開隆堂)	副読本 なし
<b>目標・ねらい</b> 生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を身につける。	
<b>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</b> 1 プリント、課題などは必ず提出すること。また、製作物が未完成の場合は、採点の対象にならないので注意すること。 2 調理実習では、班で作業することも考え、なるべく欠席のないよう体調管理に注意すること。 3 被服実習では、製作途中の課題を家庭に持ち帰ることは認めていない。欠席や作業の都合で、授業時間中に完成できなかった場合は、放課後の補習に参加し、完成させること。 4 長期休業中には、家庭での実践を含めたレポート等の課題がある。	

観点	割合	授業時における項目
生活や技術への関心・意欲・態度	20	授業・課題への取り組み状況
生活を工夫し創造する能力	10	製作物、プリントや課題の内容
生活の技能	20	製作物、プリントや課題の内容
生活や技術についての知識・理解	50	定期テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	家族・家庭と子どもの成長	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考える。 自分の幼児期をふり返り、幼児の発達と生活に関心をもつ。 幼児の体と心の発達及び生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。 子どもの成長と地域とのかかわりについて理解する。
	期末テスト	幼児の遊びの意義について理解し、遊び道具の製作を通して、その役割や遊びを支える環境について考える。 幼児の栄養について理解し、食事づくりの計画を立て、知識と技術を活用した実践ができる。 高齢者・幼児の身体や行動の特徴を理解し、高齢者・幼児の生活や地域の一員としての自らのかかわりについて考える。
後期	衣食住の文化	気候と住まいのかかわりについて考え、日本の家屋の特徴や和室でのマナーを理解する。 和食の特徴を学び、日本人が食について大切にしてきた事柄を見直す。
		地域の食材を生かした郷土料理や、生活の節目に用意する行事食など、地域の暮らしや気候が色濃く反映されている日本の食文化について理解する。 行事食の計画を立て、実践に向けた工夫ができる。
	情報に関する技術 学年末テスト	日本の衣服文化である和服について学び、日本の衣服文化への関心を高める。 パソコンに関する基礎的知識及び、基本的な操作の方法を学ぶ。

履修学年	教科	授業形態	週時間数
中学3年	宗教	一斉	1時間

教科書 聖書 新共同訳続編つき (日本聖書協会)	副読本 なし
<b>目標・ねらい</b> ・学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身につける。 ・キリスト教の歴史を理解する。 ・聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。 ・生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。	
<b>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</b> ・聖書のみことばと、現代社会の諸問題を関連付けながら、学ぶように導く ・修養会などの宗教行事についての事前の準備と、事後の振り返りを行う。 ・修養会ノートの提出や、課題に対するレポートを定期的に課す。 ・夏休みには読書感想を書く。(宗教書などの指定は適宜行う)	

評価について

観点	割合	授業時における項目
宗教への興味・関心	20	提出物・修養会ノート
キリスト教についての知識・理解	60	期末試験
キリスト教的価値観を表現する力	20	課題・レポート(読書感想など)

年間授業計画表

	単元	目標
前期	・聖パウロについて ・修養会について ・聖フランシスコ ・聖クララの生涯 ・グアデルペの聖母	・初代教会の歴史を理解する。 ・指導司祭の経歴や著作などを通して生徒に親しみを持たせる。全員が関われる修養会の企画運営をする ・中世紀の教会史を理解する。 ・学園の設立母体となっているアトメント会の精神的なルーツを探る ・聖ヨゼフ学園の関係から聖クララの生涯に触れる ・聖母月に向けての雰囲気を作る。
	・「選択」 ・天地創造・放蕩息子 ・「伊豆の踊り子」 ・「孤島物語」など ・イグナチオ・ロヨラ ・聖フランシスコ・ザビエルの生涯 期末テスト	・神の愛に信頼をおきながら、自由に「選択」していく大切さを知る。 ・自らの選びの大切さを実感する。 ・イエズス会の設立の背景や二人の聖人の生涯を知る。 ・日本におけるキリスト教の歴史を理解する
後期	「自分の広告作り」 自分を知る。他者を知る。 ・コルベ神父の生涯 ・ブラザーゼノと北原怜子 ・マザーテレサの生涯 ・ダミアン神父	・自己の感動を相手に伝えることの大切さを学ぶ。 ・第二次世界大戦におけるナチスの歴史とコルベ神父の生涯を理解する ・ボランテニアの精神を見につける ・社会の中の弱い立場の人々を、大切にすることをまなぶ。
	・ヨハネ・パウロ二世の生涯 ・ジュゼピーナ・バキターの生涯 中学校のふりかえり ①キリスト教の歴史とイエスのメッセージ ②神の愛、救いの業 ③高校に向けて 学年末テスト	・ヨハネ・パウロ二世の日本の若者へのメッセージを通して『平和、希望、愛』について考える ・現代の社会問題について考える(奴隷制度など)